

■ 入学そして卒業

入学は昭和35年4月。募集が450人に対して受験者数456人。6人だけが不合格になりましたが、どんな気持ちだったでしょう。全員入学を認めればよかったのに。受験できる中学校の校区は狭かったが、帝塚山あり、西成の下町あり、長屋の多い播磨町・阪南町ありと雰囲気異なる校区です。450人中に住吉中学85人と阪南中学74人の出身者が肩で風を切って歩いています。続くは三稜と昭和中学卒が多数派です。3年生の年に創立40周年を迎えましたが、その記憶は乏しい。あれから60年後の100周年はぜひ記憶に残したい。卒業は昭和38年3月。多くは大学進学を目指したが、就職を選択された方が41人おられます。この年の阪大合格者数64人中、15期生は42人を占め浪人組を圧倒しました。

■ 60年安保闘争

入学の昭和35年は西暦1960年。「60年安保闘争」と聞いて内容をすぐに理解できる人は現代では少ないでしょう。「全学連」「ハガチー事件」「樺美智子さん」「浅沼稻次郎委員長刺殺事件」などのキーワードが並びます。自治会活動のテーマにもなり、反安保デモに参加した者もいます。「全学連」の高校生版として「全高連」結成の動きもありましたが実現しませんでした。

■ 全人教育

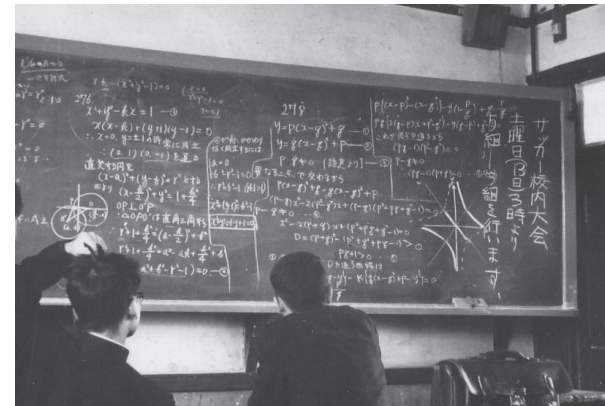
志賀平校長の教育方針。志賀校長は住高が新制高校になって以来の校長さんで、15期生が2年生の時に退職。勤続13年の長きにわたる校長職です。大阪の学習院と噂された住吉高校の校風も志賀校長の教育方針のお陰です。進取の気風の学風があり、小田実著の『何でも見てやろう』（河出書房新社、1961年）や小澤征爾著の『ボクの音楽武者修行』（音楽之友社 1962年）、岩田一男著『英語に強くなる本』（光文社1961年）という書物の影響を受けた人も多いはず。

■ 文武両道

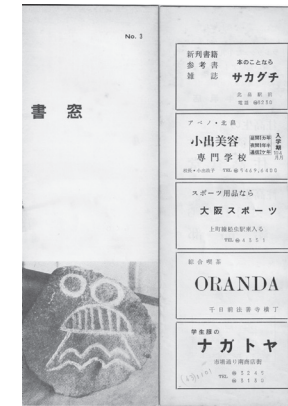
姉妹校の阿倍野高校との運動クラブ対抗戦が対阿戦として毎年行われ、運動クラブ部員が張り切る一大イベントです。運動クラブ活動は、入学してから3年生の夏合宿までの2年半、それぞれの目標に向かって遮二無二頑張ります。出原泰明君がハードル競技で大阪陸連オリンピック強化選手に選ばれるというトピックスもありました。サッカーやハンドボール、バレーボールなどの種目は全校のクラス対抗戦があり、部活動として住高にのみ存在したボート（漕艇）も、クラス対抗戦が桜の宮の大川で行われました。柔道の寒稽古が必須の科目。授業開始前の早朝に柔道場に集合し、受け身や組手を行います。寒さ対策で梅酒を呑んで出掛け、組手の相手から「酒臭い」と罵られた奴がいました。毎年のお楽しみは運動会。競技以上に「大アーチ」作りで競います。室戸台風の影響でベニヤ板や材木を大量に使うアーチの作成は中止、という学校からの指導を跳ね返した年もありました。3年生は仮装行列。女装男子のフラダンス、男装女子のファッションショー、新選組もいたなあ。

■ 名物教師&ユニークな授業

実力試験の順位を職員室の前に毎回掲示されるのには参った。数学のチャート式参考書が頭痛の種でしたが、数学担当の松本和夫先生のクラス会が「チャート会」として今も活動している。1年生の夏休み宿題に社会の森先生から「最近の法無視の傾向について述べよ」との課題に、ひと夏中、悩まされたが、このお蔭で何事も問題の所在を自ら探求し、自ら納得する意見を以て対処することの大切さを学びました。先輩から引き継がれたものですが、「名物教師数え歌」や「あだ名」で呼ぶ先生方も多かったです。柔道の中野満先生は「七つとせ 何も怖くはないけれど 中野のマンさん ちよと怖い」と歌われていますが、中野先生に公私両面で何かとお世話になった方も多はず。ユニークな授業のエピソードを少々。国語の湯谷先生は、或る時、窓外に鳥が停まっているのを見て「これは何と風情があるのでしょうか」と突然言われ、続けて「今日は歌や詩を作りましょう」と国語の全部の時間を歌や詩の制作で過ごしました。英語の中尾治郎吉先生は西田佐



数学の授業風景。右端に「校内サッカー大会」の日程。



図書部作成の「書窓」。広告主のお名前が懐かしい。

知子の歌にケチをつけながらの饒舌が始まり、それが始まると授業はそっちのけです。一方、奥野長次先生は五月みどりの「一週間で十日来い」という歌は風紀上問題あり、と俎上に載せられました。世界史の某先生は講義用のノートをばっちり作っており、一言一句その通りの授業。笑いをとる箇所も決めてあったそうです（笑い）。

■ 図書室通い

図書室は閉架式で必要な図書は司書さんを通じて取り出すシステムでしたので静かで落ち着いた雰囲気の図書室でした。宿題の回答を求めするために法律関連の書物や『ベニスの商人』『ソクラテス弁明』等を読み漁った人も多い。15期生の図書部員が「図書便り」を充実させるために『書窓』という小冊子を発刊したのもこのころ。発刊の費用は部員が企業広告を集めて賄

い、「閉架式を改めるべし」という部員からの主張も見られる。視聴覚教育充実のため図書室に大型の音響設備が整えられ、定期的なレコードコンサートが始まったのもこの時代でした。

■ フォークダンス

異性を大いに意識するチャンスが、放課後に行われたフォークダンス。一人ずつ順番にパートナーが移動してゆくダンスが最もスリリング。参加する男子が多いので、女性パートに男性が割り振られるという悲劇も生んだ。誰が好き？彼が好き！とワーワー言っていました。たわい無いものでした。このフォークダンスは自治会主催。14期生の牧野弘史会長、北野ヨシ子副会長の時代に始まったようです。（井関通弘、板垣美一、小槌義雄、竹本俊平、難波江知子、永宮正治、藤枝正樹、藤田益江）

世の中の出来事（1961年）

- 第二室戸台風 ●ベルリンの壁建設 ●高校野球選手権で大阪浪商が優勝
- 大阪環状線全通 ●坂本九「上を向いて歩こう」がヒット

卒業時担任一覧

| 学級 | 学級 | 学級 | 学級 | 学級 | |
|----|-------|----|------|----|------|
| 1 | 奥野長次 | 2 | 碓昇 | 3 | 寺本節生 |
| 4 | 干鯛谷佐郎 | 5 | 嶋啓二 | 6 | 山内春夫 |
| 7 | 能登実 | 8 | 松本和夫 | 9 | 谷伝治 |

卒業生数

450名

私達の期を一言で表現すると？

青臭さが残るイチゴ会

[いちごばたけのちいさなおばあさん]（福音館刊）が、赤い色を半分だけ塗り終えた時に住高を卒業しました。

修学旅行先は？

北九州ぐるり半周

四泊五日で別府・阿蘇・熊本・雲仙・長崎の旅。古稀記念に三泊四日で宇佐・阿蘇・山鹿・雲仙・長崎へ復元修学旅行。